公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 星とたんぼぼ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月10 日		~ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	36
○従業者評価実施期間	2025年 2月10 日		~ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月10 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達障害に特化した療育であること	・常に専門の先生を入れての研修体制を取っている。毎日の反省会やケース会議を常日頃から行い、どうしてもわからないことは、専門の先生に聴ける体制があること。	・これからも、この研修体制を続け、職員の学びを、子どもの療育や保護者支援に生かしていく事。
2	・子どもの評価、そこからの支援について一人ではなく、チームで考えていく体制があること。	・毎朝の朝礼、子どもが帰った後の反省会での振り返りで、職員全員で共有し、誰が見ても(療育しても)同じ関わりができるという体制。	・常日ごろから、子どもたちのことを話しあえる雰囲気づくりに努め、職員が一人で抱え込まずチームで関わることの大切さを継続していく事。
3	・専門的な勉強のできる体制がとられている事。	・月に一度程度の座学と、2か月に一度程度の実践を通して、職員は子どものために学べる機会が多い。	・職員が学ぶことにより、子どもへのより良い支援につながるなら、これからも予算を取って、職員が学べる体制づくりをしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者への発信	・実際にしている支援やプログラムについて、保護者へのアピールが弱く、伝わっていないと感じる。	・毎回話す時間を取っているにもかかわらず、アンケートを取ってみて、伝わっていない保護者が数人いたことで、早急に、これについて改善の方法を全職員で考えて実践していきたいと思う。（参観日を設ける、実際に支援をしている場所を公開する、映像に撮ってお見せする等）
2	・「親の会」を開催しても、参加する人が限られている。そして、毎回お手紙を出しても、その存在すら「知らない」と言う人がいる。HP等、できる限り更新しているのだが、その存在も知らない人がいる。	・親の会が魅力的ではない。子どもを置いて参加しづらい。HP、Facebookの更新が、保護者としては物足りない。	・親の会を魅力あるものにする。会場に足を運ぶことなく、参加しやすい方法を探る。HPやFacebookの更新をできるだけ多くして、関心を持ってもらう。
3	・子ども一人ひとりに合わせると支援の準備等、時間の捻出に工夫が必要。良いところでもあり、苦しいところでもある。	・「個別に必要な課題」は、当事業所での強みの一つである。一人一人に合った課題を考えることは必要。	・補助の先生に見てもらえるところ等の工夫をし、少しでも準備の時間を作るよう工夫し、やりがいを持って楽しく療育に当たってほしい。